

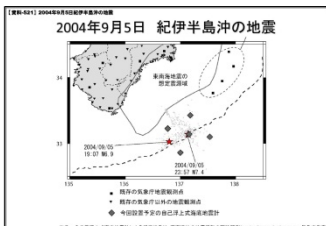
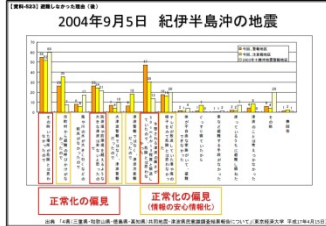
# 中学校 (5-2)

## II 対処行動を知る E 避難できない人間の心理を知る 【学級活動 1 時間】

### 1 目標

- ・防災についての知識があっても行動できない人間の心理を理解したうえで、災害発生時に率先して避難行動する意味を持たせる。

### 2 展開

	学習活動と内容 主な発問・指示 (◇)、予想される子どもの反応 (・) など	指導上の留意点 支援 (○)、評価 (☆)、参考 (●) など
導入	<p><b>1 日常のいろいろな状況を想定して、そのとき地震が発生したらどうするかを考える。</b></p> <p>◇今、非常ベルが鳴ったら・・・どうしますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放っておく。(何かの間違いだろう、悪戯かも)</li> <li>・みんなが避難するようなら避難する。</li> <li>・先生の指示があるまで待つ。</li> <li>・すぐに避難する。</li> </ul>	<p>○アイスブレイクとして意見交換を行う。避難行動を起こそうとしない生徒が多いと考えられるので、その理由も述べさせ、学習課題を考える際の材料とする。</p>
<p><b>学習課題『避難できない人間の心理について、理解しよう。』</b></p>		
展開	<p><b>2 災害時に避難行動を阻害する心理を考える。</b></p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">【資料-521】【資料-522】を提示</p> <p>◇平成 16 年 9 月 5 日に紀伊半島沖で地震が発生し津波警報が発令されましたが、避難勧告が出たにもかかわらず避難しなかった人がたくさんいました。なぜ避難しなかったのだと思いますか。</p> <p>&lt;正常化の偏見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大したことないだろうと思った。</li> <li>・自分だけは大丈夫と考えた。</li> </ul> <p>&lt;集団同調性バイアス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな避難しなかったから。</li> </ul> <p>&lt;エキスパート・エラー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家などが大丈夫だといったから。</li> </ul> <p>&lt;経験にとらわれる&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前の地震では津波はここまでなかった。</li> </ul> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">【ワークシート-52】を配付</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">【資料-523】を提示</p>	<div style="text-align: center;">  <p><b>【資料-521】 2004年9月5日 紀伊半島沖の地震</b></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p><b>【資料-522】 津波避難率</b></p> <p>津波警報が出た地域・・・8.6%の人が避難 津波注意報が出た地域・・・1.9%の人が避難</p> </div> <p>○【ワークシート-52】に記入させる。</p> <p>○発言が出尽くしたところで、【資料-523】を提示する。</p> <div style="text-align: center;">  <p><b>【資料-523】 避難しなかった理由</b></p> </div>



	学習活動と内容 主な発問・指示(◇)、予想される子どもの反応(・)など	指導上の留意点 支援(○)、評価(☆)、参考(●)など
	<p>◇この授業での学習を踏まえたうえで、実際に大津波警報が発令されたとき、あなたはどのようなことが心配ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動をとれるだろうか。</li> <li>・親や先生に「待機しよう」と言われたら行動しないかもしれない。</li> <li>・周りの人の行動の影響を受けてしまいそう。</li> <li>・不安はない。</li> </ul>	<p>○頭で理解していても行動に結びつけるのは簡単ではないという発言を認めつつ、災害時には率先して避難行動をしようとする意欲が大切だという意識を持てるよう励ます。</p> <p>○和歌山県における津波に関して、次の特徴を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-地震発生場所が陸地に近い和歌山県では、地震発生から津波到達までの時間が非常に短い。</li> <li>-また、大津波を引き起こす長い周期で揺れる地震は、場合によっては大きく揺れていることを認識できない場合がある。</li> <li>-「大きな揺れを感じたらすぐに避難する」とともに、「たとえ揺れを感じなくとも大津波警報が発令されたらすぐに避難」することが極めて重要である。</li> </ul>
まとめ	<p><b>3 授業を振り返り、考えをまとめる。</b></p> <p>◇ワークシートに授業の感想を書きましょう。</p> <p>◇さて、今、非常ベルが鳴ったらどうしますか。</p>	<p>○【ワークシート-52】に記入させる。</p> <p>☆災害時に陥りやすい心理を理解できたか。</p> <p>☆これらの心理を理解したうえで、災害時に率先避難者として行動しようという意識を持てるようになったか。</p> <p>○発問を投げかけるだけに留め、実際に避難行動をとることの難しさを再度認識させる。</p>

### 3 備考

- ・資料を拡大し黒板に提示、印刷して配布するなどして活用してもよい

### 4 その他資料(出典)

- ・【資料-524】～【資料-526】：山村武彦「人は皆『自分だけは死なない』と思っている」(2005 宝島社刊)

【参考資料】4 県（三重県・和歌山県・徳島県・高知県）共同地震・津波県民意識調査結果報告について

東京経済大学（平成 17 年 4 月 15 日）

第 III 部 2004 年 9 月 5 日紀伊半島南東沖地震時の津波危険地区住民の避難行動（一部抜粋）

2004 年 9 月 5 日午後 7 時 07 分、紀伊半島沖の地下 10km を震源とするマグニチュード 6.9 の地震が起き、7 分後の午後 7 時 14 分には三重県南部（伊勢市以南）及び和歌山県沿岸に津波注意報が出され、続いて午後 8 時 16 分、徳島県、高知県、三重県の南部以外に津波注意報が発表されたが、同午後 9 時 15 分、注意報はすべて解除された。続けて 11 時 57 分頃、東海道沖を震源（午後 7 時 07 分の地震とほぼ同じ場所）とするマグニチュード 7.4 の大地震（本震＝紀伊半島南東沖地震）が起き、9 月 6 日午前 0 時 01 分には和歌山県沿岸に津波警報、徳島県と高知県の沿岸には津波注意報が出された。さらに午前 0 時 03 分には三重県南部（伊勢市以南）に津波警報、三重県の明和町以北には津波注意報が出された。

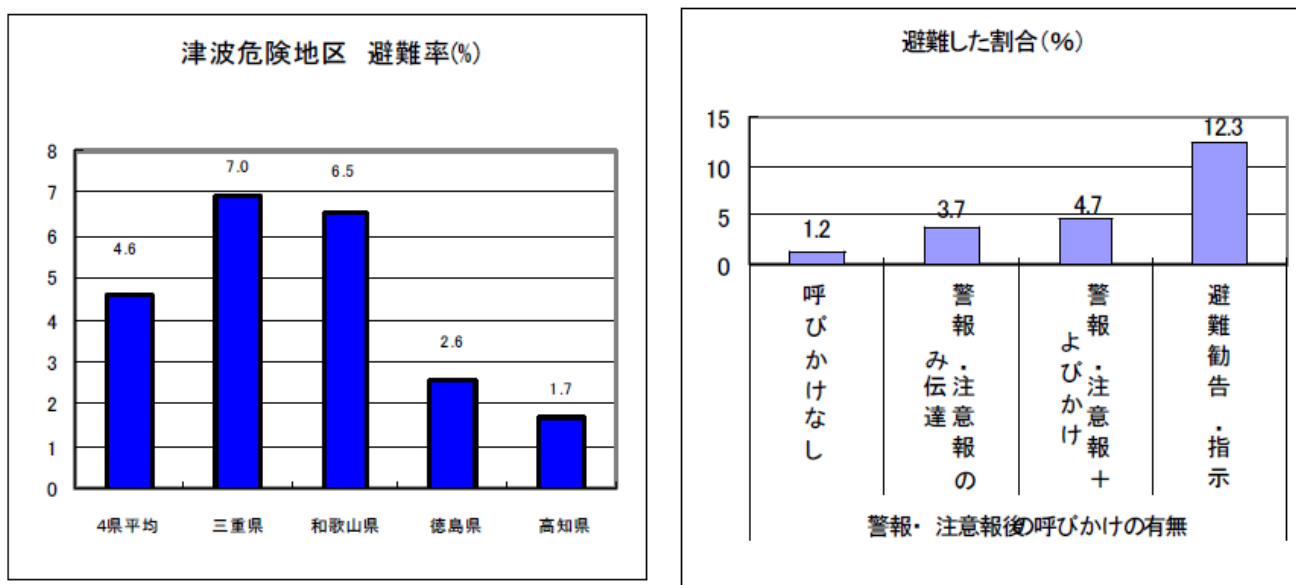


図15 各県の避難率と市町村の呼びかけ内容による避難率の違い

(以下、避難状況等についての調査結果考察より一部抜粋)

- ① 避難勧告・指示を出した 11 市町村の住民の半数以上が防災無線やテレビなどから避難の呼びかけを聞いている。その受け止め方は多様であり、「避難命令」と受け止めた人が 2 割弱、できるだけ避難した方がよいと受け止めた人が 4 割、どちらかといえば避難した方がよいと軽く受け止めた人も 4 人に 1 人程度いた。
- ② 実際に避難した人は津波警報対象地区でも、わずか 9%に過ぎず、注意報対象地区では 2%であった。また、避難勧告・指示を出した市町村の住民でも 12%に留まった。しかも、市町村による避難勧告・指示や津波警報を聞いてやっと避難した人が非常に多く、揺れの直後に自己判断で避難した人は少なかった。また、避難所要時間も平均 30 分近くかかっている。
- ③ 避難しなかった理由を尋ねた結果、「そのときいた場所が危険とは思わなかった」、「予想される津波の高さが 50cm とか 1m 程度と放送していたので、危険とは思わなかった」という理由が多かった。このことは、津波危険地区に住んでいるという意識が弱く、今回の津波警報を安心情報に読み変えてしまう人が多かったことを示している。